

# Alumni Association Report

日本大学芸術学部校友会報

108

2022

春季号



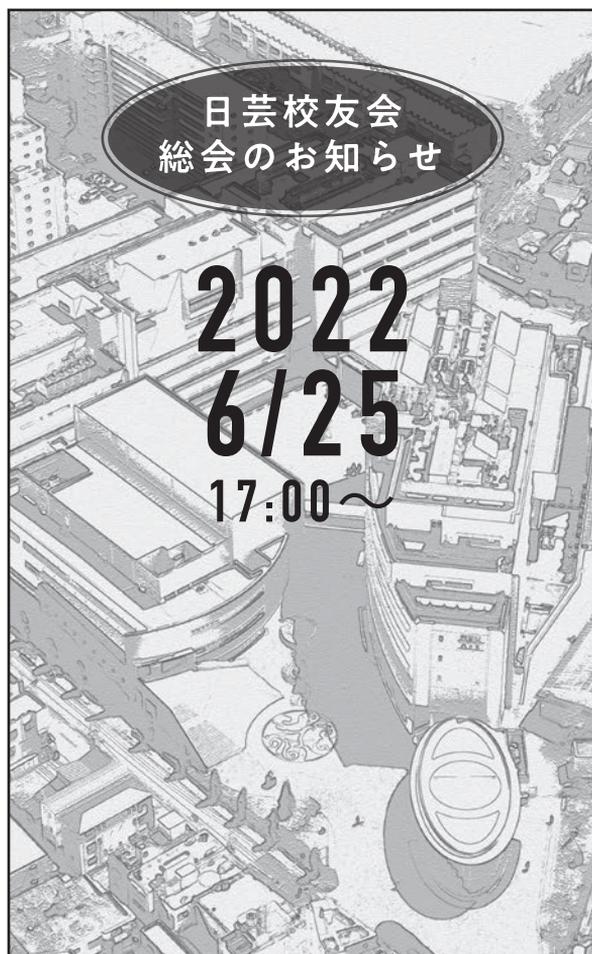
8つのアート 1つのハート

**NOU**  
Nihon University College of Art  
**Art**

日本大学芸術学部

# CONTENTS

日本大学の明日のために	02
綾部東洋子さんを偲んで	03
木村学部長のひとりごと	06
日々是好日、会長日記	06
江古田会ニュース	
愛知江古田会・岩手江古田会	07
宮崎江古田会・秋田江古田会	08
台湾江古田会・青森江古田会	09
新潟江古田会・長野江古田会	10
第16回日藝賞決定	11
日藝創設100周年特別番組	12
皆さん今日は！	13
学科ニュース	
写真学科・映画学科	15
美術学科・音楽学科	16
文芸学科・演劇学科	17
放送学科・デザイン学科	18
校友会からのお知らせ	19
編集後記	22



日時:令和4年6月25日(土)17時~

会場:日本大学桜門会館(日本大学校友会本部)4階

住所:東京都千代田区五番町2-6

市ヶ谷駅下車 徒歩約2分

- 懇親会はありません。
  - 総会終了後、お弁当をお持ち帰りください。
  - コロナウイルスの感染状況によって突然変更する場合がございます。
- ※校友会ホームページ、twitterでご確認くださいるか、校友会事務局に電話(03-3554-5363)で確認をお願いいたします。

議題 1.会務報告 2.会計報告 3.予算審議

※ご出席頂く場合にご注意いただきたいこと

- ・感染による影響が大きいとされるご高齢の方、基礎疾患のある方、体調のすぐれない方は慎重なご判断をお願いいたします。
- ・必ずマスク着用・建物入口で手指の消毒・体温の測定をお願いいたします。
- ・当日発熱・体調不良の方は入場をお断りすることがあります。
- ・校友会員の皆様の安全確保を最優先といたしたく、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

# 日本大学の明日のために

校友会会長代理・代行 小幡 純



芸術学部校友会の皆様、平素より日本大学校友会の諸活動に御支援と御協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

現在、校友会会長代理・代行を務めさせていただいております、小幡 純と申します。この度の一連の問題に際しまして、校友である皆様には多大なる御迷惑と御心配をおかけしておりますこと、校友会を代表いたしまして心よりお詫び申し上げます。

また、当時、校友会の役員であった田中前校友会会長および井ノ口、藪本前校友会副会長が、東京地方検察庁に逮捕・起訴されましたことは、誠に遺憾に存じます。今後、私は校友会会長代理・代行として、失われた校友会の信頼回復に全力で努めていく所存です。

現在、大学では「日本大学再生会議」を設置し、管理運営体制等を抜本的に見直すことで、大学経営およびガバナンス体制が問題視される事案が再発しないよう、改革案を提言いただき、それを受け入れ、信頼回復に努めていくとのございます。しかし、その道のりは、決して平坦なものではありません。

また、日本私立学校振興・共済事業団からは「学校経営に関わる刑事事件で役員が逮捕・起訴されたこと」および「学校法人としてガバナンスが十分に機能し

ておらず、管理運営に適正を欠いていたこと」により、日本大学に対する2021年度の私立大学等経常費補助金の不交付が決定いたしました。これにより、今後5年間は補助金の不交付または減額交付が続くことになり、大学経営に大きな影響を及ぼすことは間違いありません。しかし、これを理由に現在在籍している学生たちには、決してそのしわ寄せがいかないよう、また今後入学してくるであろう未来の学生たちのためにも、今こそ我々校友会にしかできない支援を検討・実施していくことが急務であり、それが結果として大学を守ることに繋がるはずだと信じております。

校友会は、会則にも謳われており、大学との共生組織体である以上、大学がどのような状況に陥ったとしても、決して背を向けることなく、車の両輪の如く、お互いに助けあっていくことが必要不可欠です。何より、学生たちのため、また、誇り高き123万人の校友のためにも、この難局を何としまし乗り越え、先人たちが築き上げた歴史と伝統ある日本大学の名誉を取り戻さなくてはなりません。

そのためには、私自身も校友会会長代理・代行として、全身全霊をもって信頼回復に努めていく所存です。そんな私が常に念頭に置いている言葉に「GRIT」と

いうものがございます。これは、困難に立ち向かう闘志（Guts）、失敗しても諦めずに続ける粘り強さ（Resilience）、自らが目標を定め取り組む自発（Initiative）、最後までやり遂げる執念（Tenacity）といった、それぞれの頭文字を並べたものであり「やり抜く力こそが、社会的に成功を収める最も重要な要素である」と提唱されているものです。まさにこの言葉のとおり、今こそ原点に立ち返り、母校の興隆発展と校友会の信頼回復に全力で努めて参りますので、改めて皆様からの御支援と御協力を賜りますよう、この場をお借りしてお願い申し上げます。

最後になりましたが、芸術学部校友会の益々の御発展と、会員の皆様の更なる御活躍を祈念して、私の御挨拶とさせていただきます。

## 小幡 純

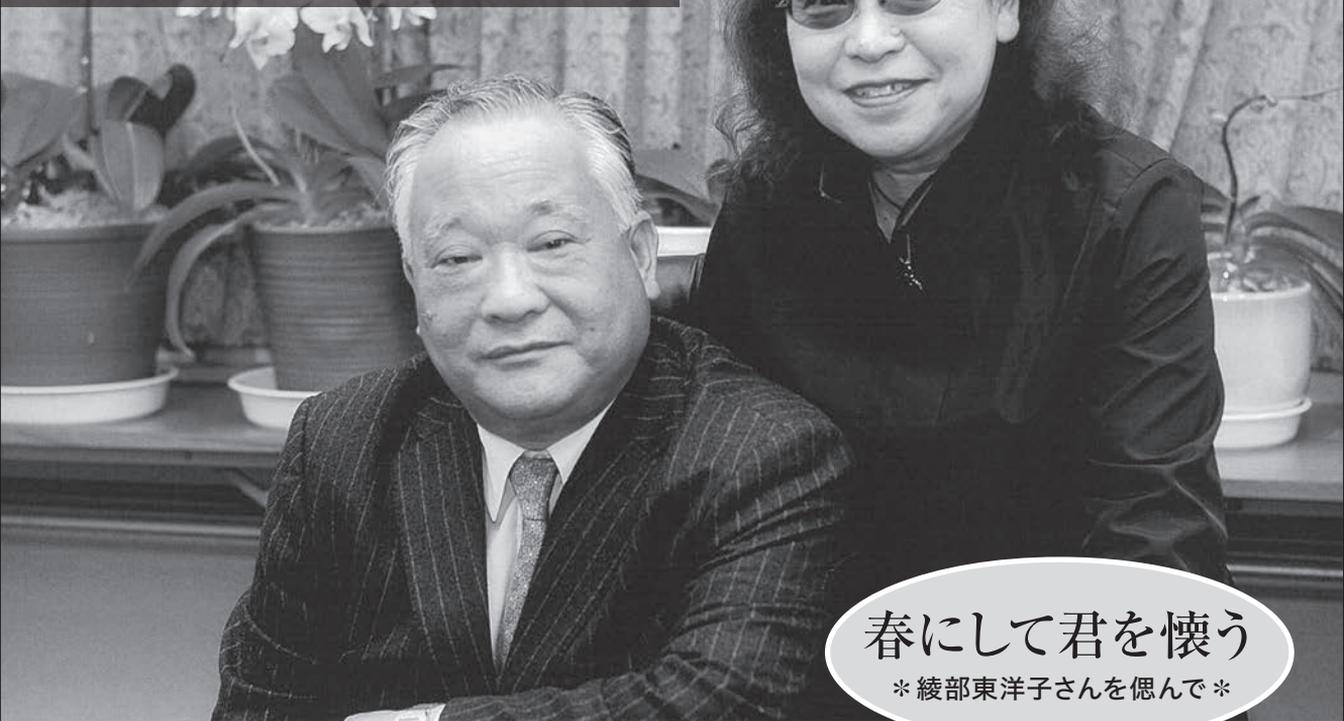
校友会会長代理・代行

(プロフィール)

- 1945年 東京都生まれ
- 1971年 日本大学歯学部歯学科を卒業  
日本大学助手（歯学部勤務）
- 1978年 日本大学専任講師（歯学部勤務）
- 1981年 小幡純歯科医院を開業
- 1984年 日本大学法学部非常勤講師
- 1994年 上海市復旦大学付属病院 口腔科名誉主任
- 2013年 日本大学歯学部同窓会会長に就任
- 2021年 日本大学校友会会長代理・代行を務める

# お疲れさま そしてありがとう

日本大学芸術学部校友会 顧問 野田 慶人



春にして君を懐う

\* 綾部東洋子さんを偲んで \*

綾部東洋子日本大学芸術学部校友会、通称「江古田会」前会長が2021年10月15日、急逝されました。突然の訃報に皆、驚くばかりでした。

綾部さんは、演劇学科の出身で、在学中に「あけびの会」を結成し、様々な芸術活動を経て、卒業後、「影絵グループあけびの会」として、全国の幼稚園、保育園、障害者施設等を訪ね、400回以上のボランティア公演活動を実施してこられました。その後、傘下に10グループを持つ大きな会へと発展させ、海外の芸術家協会の招聘、国際交流財団からの支援もあり、パキスタン、トルコ等をはじめ海外10ヶ国への公演も実現させました。これらの功績が高く評価されて2007年春には緑

綬褒章を受賞されています。あの見た目には違わぬパワフルでアクティブで情熱的姿勢は、この時代に培われたものだと想われます。

その後、今だに語り草になっている熾烈な選挙戦を勝ち抜いて、江古田会女性初?の会長として2008年9月～2017年6月までの9年間、日本大学芸術学部、日本大学芸術学部校友の為、日本大学校友の為、その激務に活躍されました。私の学部長12年間のうち、最初の9年間と一緒に頑張った戦友でもありました。

前会長の功績は目覚ましく、当時、私、映画学科の宮澤教授（次長）、写真学科の原教授（大学院担当）の協力も得て、地方江古田会の開拓、そして台湾、韓国、

中国江古田会の立ち上げと海外江古田会の誕生まで着手されました。更に、日本大学校友会、通称本部校友会でも、その発言力、信頼性、センス、迅速さ、器用さ等が評価され、広報委員会委員長の大役に任命され、校友会機関誌「KIZUNA」の企画、編集に尽力され、「芸術学部、江古田会、ここに有り!」とばかりに本部校友会にもその足跡を強烈に残されました。

一方で、心優しく世話好きで責任感も強く、江古田会で、ある時は「会長役」、ある時は「母親役」、ある時は「姉貴役」として、様々な会員に慕われていました。

ここで私との個人的なエピソードも二件程披露させていただきます。



一つ目は、地方江古田会の総会出席の為度々ご一緒させて頂きましたが、ここでは、好奇心一杯、話し好き、聞き上手な綾部さんの手腕が発揮され、芸術学部や日本大学の内状から娘婿で俳優的場浩司さん、その友人の船越英一郎さんの話まで、休む間もなく、到着するまで続きました。折角の出張の行き帰り位、本でも読み、風景でも眺めて、のんびり過ごそうと想っていた私は常に裏切られ、後半の出張時は、申し訳なくも便を変えようとしたものです。(笑)

二つ目は、毎年の新年の親睦会のことです。

その親睦会は、各学部校友会会長、全国江古田会会長、海外江古田会会長も招

待して開催されます。内容は江古田会各会長の紹介ならびに挨拶、ビンゴ大会、会員の芸術活動披露から打ち上げが行なわれ、盛り沢山で飛び入りまで呼びかけるといふ盛大でにぎやかで芸術学部らしい会でした。ただ催し物が多く長時間に及び、1年ぶりの江古田会校友の再会を楽しむという新年の親睦会の主旨から疑問に想う私でしたが、主催は江古田会、私はゲストという立場もあり、お祭り好きでイベント好きでにぎやか好きの綾部さんを象徴した会と納得し、何も言わずただただそのタフさ、強烈さに感心するばかりでした。

以上二つは忘れられない綾部前会長との濃い思い出となっています。

ところが、本稿執筆中にも突然の訃報が飛び込みました。佐賀江古田会の博識で芸達者な前名物会長、音成日佐男さんが急逝されたとのことでした。73才で私と年令も近く、放送学科の先輩でもありました。想い起こせば、昨年夏には、放送学科の後輩で今後の江古田会での活躍が期待されていた秋田江古田会前会長の藤澤朗さんも急逝されましたし、淋しくなるばかりです。

恐らく、綾部前会長を中心に天国江古田会が結成され、見守って下さっているものと信じるしかありません。



# めざすは遠き 夢の国

豊島 紘武



## 春にして君を懐う

\* 綾部東洋子さんを偲んで \*

綾部東洋子さんの逝去にひとり物思いに沈み、しんみりと物淋しく過ごしている。今年2度目の雪が降ったせいもあるのだろうか？

綾部東洋子さん “あなた” は第10代芸術学部校友会会長に選ばれ3期務めました。他学部含むはじめての女性会長です。

支部江古田会支部長会議を開催、地域交流親睦を図りました。会長の下に運営委員会を置き総会、芸術祭、新年顔合せ幹事会等の準備、進行を取り仕切る学科間の垣根を越えた運営スタッフの育成に努めました。また本部校友会副会長広報担当として常任幹事会、総会での全国校友の前で活動計画・活動報告は威風堂堂のものがありません。

～♪めざすは遠き夢の国 ♪ルソン  
♪アンマン ♪カンボジア ♪はるかオランダ  
♪ヒスパニア♪♪～

“あなた” が幼少期によく聴いていたと云うラジオドラマ「新諸国物語」のテーマ曲の詞です。

綾部東洋子さん “あなた” の<sup>アザナ</sup>字名は“ガム”。漢字に充てると“我夢”。“あなたの夢”はこの幼少期のドラマの詞の中にすでに見つけていたのですか？ そう学生時代に仲間たちと上げた“あなた”主宰の影絵『あけびの会』はニュージーランド、パキスタン、トルコ、リトアニア、台湾など10数回の海外公演をし国内でも東北の支部江古田会の支援を受けて被災地公演等数々のボランティア活動もありまし

た。また“あなた”指導の下の“影絵グループ”の誕生は地域に数団体あると聞いています。“あなたの夢”に平身低頭です。

“一番に大事”と同期の私に話していた影絵『あけびの会』は“いつもの幼稚園”から今年も懇われて“あなた”が育てたOG・OB含む座員で2回の公演を無事に終えたと聞きました。園児たちの～ ♪足踏みドンドンドン ♪ドンドンドン♪～ はなん度も何度もつづいたそうです。公演の次の日は2度目の雪でしたよ。

綾部東洋子さんは“遠き夢の国”をめざして2021年10月15日旅立たれました。



## 木村学部長の

# ひとりごと

木村 政司

私は信仰にはさらさら興味がない。しかし、神の存在は信じている。

高校生の時から悩みはすべて、成田山（真言宗智山派）の阿闍梨さまに相談してきた。

阿闍梨さまのご説法は、いつも聖書からの引用で、仏教とキリスト教の解釈の違いからよく話をしてくれた。阿闍梨さまのご兄弟は、キリスト教の神父さまだった。

この時、宗派の違いより物事の解釈の違いから掴むことが大切であることを悟った。

最も強く私の脳裏に染みこんでいるのは、「突き詰めれば、神様は宇宙だ」という言葉だった。「結局、私の誕生日も亡

くなる日も自ら決めることが出来ないのだから、何か計り知れない大きな力が私の生命をコントロールしているかも知れない」という話を聞いた時、私の生命は私を包み込んでいる宇宙によって支配されていると感じた。このことは、トーンが下がらず今でも強烈に感じている。だから、「宇宙が神様だ」という結論は普遍である。

擬宝珠は、地球上に私が誕生した瞬間のかたち。

球体にポツッと現れた私が、地球の中心であり、宇宙の中心である。

「生きる」ということは「死なない」ということだから、生きているから認識できる突起物が私である。私が擬宝珠である。だからとんがっていい。生きることに必死がいい。

私がいつか亡くなり地球から存在がなくなった時、擬宝珠は丸い姿に戻り、それ自体認識ができなくなるという、ただそれだけのことだ。

つまり、産まれる前に戻るだけのことだから、死を怖がることはない。

本当に大切なのは、生きているということなのだ。

May the world be free of conflict and war!

## 日々是好日、会長日記

田上 竣詞



昨年の暑いある日、妻と二人で避暑地である鳴沢に赴きました。宿泊して2日目、妻が発熱38度の熱と咳の症状。

これはひょっとしてコロナでは？

慌てて富士吉田の保健所に電話。

そこで云われたことは、相談窓口を開設していますからそちらに問い合わせして下さい。

相談窓口では、ご自分で最寄りの病院に問い合わせ診察を受けて下さい。

えっ、とは思いましたが仕方がないので携帯端末を使い鳴沢にある病院に片っ端から電話を掛けました。全ての病院が、うちではPCR検査はしていませんとの回答。

河口湖の日赤なら診てくれるのではと考え、山梨日赤病院に電話、そこで云われたことは陽性と分かったら診察します。

えっ、どういう事？どこでPCR検査をすれば？

旅先の方々に迷惑を掛けられないと判断、その夜車で東京に戻り、友人が開業する病院に。そこでの診断は、コロナ陽性！

即、友人の医師から保健所に報告が上がり、二日後に保健所から自宅隔離、在宅治療の指示が来ました。

私も濃厚接触者として2週間自宅謹慎（待機）。

2週間、妻とワンコのお世話。幸い妻は軽症で快復、私には感染しませんでした。

妻に一言、どこで感染したの？

妻は怒り始めました。

どういう事？

それ以来、専業主婦である妻には、コロナの話は禁句になりました。

人間万事塞翁が馬！を信じ今を過ごしています。

## ■江古田会の魅力

同じ学部出身とは言え年代は様々、見知らぬ人も多い中で今昔を問わず江古田キャンパスや街の話が出ると、「ああこの人も確かに同級生なのだ」と急に親近感が湧いてきます。

実習スタジオ以外の授業はオンボロ木造校舎だったとか、校庭の西武線側に古びたプールがあったことなどを、したり顔で話す先輩。部活のたまり場は商店街の喫茶「らびっと」だった、駅横の「来々軒」のオヤジが作るもやしソバは絶品だったなど、他部や若い後輩にはどうでもよい思い出話もまた一興。

会食の席にはふさわしくありませんが、男性個室トイレの落書き話には笑えました。「汝、神（紙）に見放されし者は自らの手で運（ウン）を掴め」。ドイツ語風にIch（私は）funbatte das Unchiとあり、その下には別の筆跡でIch funbattemo den Unchi. さらに三行目はIch funbattara deta Unchi.

所沢を知らない人も知る人も江古田は共通のキーワード。「有名な〇〇と机を並べた」と話せるのもこの会ならではのでしょう。

## ■愛知江古田会へのお誘い

愛知江古田会は平成28年に校友会20番目の支部として発足しました。活動は毎年9月下旬の土曜夜開催する、総会・懇親会それに二次会が中心で、会報発行やネット発信はしていません。県に関係ある校友は無論のこと、懇親会に出席可能であれば岐阜・三重県在住の方も大歓迎。入会金や年会費は不要です。現在総会案内は120名余りの会員に発送しています。

支部としては新しい当会ですが、そのルーツはもう40年近く前になるでしょうか、日芸ならではの業界有志が立ち上げた名古屋江古田会に遡ります。最盛期の昭和後半から平成にかけては、年一回をメドに懇親会を開催していました。

広告・CM制作・放送・新聞・演劇・クリエイター・プロダクション関係者が中心で、時には泊りがけの旅行やゴルフ会をしたこともあり、お互いの仕事にも貢献大でした。

数年前気がつけば会員の大半が退職組となり、危機感を抱いた会では再びかつての隆盛を目指して校友会に加入しました。平成卒業組や女性幹事の尽力で、目論見通り現役会員が増え始めた矢先のコロナ禍。会は第4回で中断状態となっています。せっかく盛り上がってきた愛知江古田会。今年は開催でき、冒頭のような楽しい思い出話に花を咲かせたいものです。

まだ会員でない方は平成卒の藤田勝支部長に是非ご連絡を。携帯090-1783-5103です。勿論SMSでも構いません。

愛知江古田会幹事 村井秀樹（放送 昭和41年度卒）

前理事長の不祥事が報道され、「しょうがない大学だな」と思っている人も多いだろう。私もその一人であるが、腹立たしさのような感情はない。なぜなら、自分を日大卒とっていないからである。私は日藝卒である。

さて、岩手江古田会は平成17年2月に映画学科65年卒の國分一彦氏を中心に結成された。年に1度総会と懇親会を行っている。総会の案内は70名程に出している。70～90名くらいが県内の有資格者ではないかと思われる。

総会には学部長様・同窓会長様に遠路ご来県いただいている。さらに宮城江古田会、秋田江古田会の会長様・会員様にもご参加いただいております。また、日大校友会岩手支部長様にもご参加いただいております。総会は短時間であることを旨とし、懇親会に会の命運を懸けております。山海の珍味、趣向を凝らした料理が供され、ある時は大量の松茸、またある時は四條真流儀式庖丁師範による古式ゆかしい技の披露等「一期一食」の宵を過ごします。余興では毎回大好評をいただいている「偽ハングル語講座」という佐藤剛会員による門外不出の教養講座もごぞいます。

会は明朗会計・単純決算・簡易簿記で運営しております。総会時に参加費をいただくのみで、入会金・年会費はないという昨今珍しいお財布に優しい岩手江古田会です。Facebookやホームページを持つことを潔しとせず、対面・リアルにこだわり、不易と流行の不易のみを追求しています。一方で夏炳冬扇と言われても、寸鉄人を刺す、山椒は小粒でぴりりと辛い、そんな集団を目指すべく日夜格闘しております。

群れることを好まない日藝同窓生でありましようが、お気軽にご参加いただければと役員一同お待ちしております。



令和元年度総会

岩手江古田会会長 鈴木勝博 記・文責

■江古田会の皆さん、今日は。宮崎江古田会の後藤です。我々の会が発足したのは2000年6月10日でした。それから22年の年月が過ぎました。創立後12年を迎えた宮崎江古田会は数ヶ所の支部で発行されていた機関誌に刺激され、宮崎江古田会「どんげしよっと」を創刊しました。まさに感無量でした。「どげんしよっと」は総会時に配布し、参加できなかった方には郵送で配布しました。発行に向けがんばったお陰で反応も沢山ありました。13年を迎えた第二号では会員の方からの原稿がメインで紹介され、好評でした。しかし、第三号になると原稿が集まらなくなり、残念ながら休止となってしまいました。

平成から令和に年号が変わり、初年の6月8日(土)、第20回の宮崎江古田会・総会・懇親会を「杉の子」で開催する運びとなりました。出席者10名参加で収支報告、令和元年度事業計画及び、予算説明を行い懇親会へ。冒頭に来賓4名の方の紹介があり、乾杯の音頭と共に始まりました。郷土料理に舌鼓を打ちながら会も盛り上がったところで、皆さんの協力で集まった景品を中心にイベント「ビンゴゲーム」が賑やかに進行し、続いて宮崎江古田会恒例の「3分スピーチ」が始まり、盛り上がりの中14名全員の思い出や近況報告で締めくくられ、一本締めで賑やかに総会、懇親会を終了しました。

残念ながら令和2年、令和3年と丸2年コロナ禍で総会、懇親会が中止となって今日に至り、今年度も未だ未定です。創立して22年も過ぎると先輩、後輩がぼつぼつと旅立ってしまい現在会員名簿上40名。内総会、懇親会に参加される方は10名から15名以内で運営している状態です。今後の校友会は少子化時代へ突入、現在の会員の皆さんはそれなりの高齢者となり若手育成は限られています。何か虚しさを感じている所です。コロナ禍の時代、先が見通せない状況です。各支部の皆さんも難儀している事と思いますが、前を向いて頑張りましょう!!

- ・宮崎江古田会の入会金、なし
- ・年会費、総会、懇親会に出席された方より千円
- ・名簿に記載された人数40名
- ・活動内容は年一回の総会・懇親会で特にありません
- ・Facebookやホームページはありません。

以上



**皆さん、こんにちは。秋田江古田会です。**

秋田江古田会は2007年(平成19年)2月3日にめでたく設立総会の開催となりました。田宮忠支部長のもと来賓に野田慶人学部長、園田、綾部校友会副会長。宮城江古田会塚崎支部長、桑折事務局長、山形江古田会横山支部長をお迎えして出席会員14名での開催となりました。

その翌年会員からの紹介で江古田会の存在を知り、即入会の意思を伝えました。年に数回開催する交流懇親会から参加しました。

お酒が入り、会員の皆さんから学生当時の話を伺いました。興味があったのは、当時大学の学園紛争が盛んな時期で、学校が閉鎖になり授業はわずか数回しか受けられなかったがちゃんと単位はもらって卒業できたとのことで、会社を退職する最後の仕事で「男鹿の丸木舟」の制作ドキュメント映像を作成して視聴者に感動を与えてくださいました。又、演劇卒の先輩は秋田県出身の女優でまさか同じ場所でお会いできて一緒に会食できるとは思ってもいませんでした。このように同じ校舎で過ごした素晴らしい大先輩と共にいろいろなエピソード、各学科の思い出話を伺いながら過ごす時間に大変貴重で興味深い思いをしました。

それから10年後のH29年3月に秋田江古田会設立10周年記念総会を行いました。藤澤朗支部長のもと来賓に野田学部長、綾部校友会会長、岩手の國分支部長、宮城の桑折支部長のご臨席でゲストに名渡山遼氏(H26年度卒、音楽)をお呼びしてのウクレレ演奏に拍手喝采でした。



※(設立総会)



(10周年記念総会)

現在、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で様々な活動が制限され会議の開催も中止を余儀なくされた矢先、ちょうど1年前藤澤朗現会長が病気のため急逝されました。会長が病気になることも知らず、コロナにより葬儀にも出席できない状態でした。現在活動は停止したままとなっております。秋田は例年になく雪の多さで雪かきのため疲弊しております。コロナが落ち着いたら「秋田江古田会」の活動を再開するため準備をしようと思います。

(昭和54年度音楽学科卒・仙北屋昭弘)

■今年の台湾江古田校友会の集まりは、新型コロナウイルスの蔓延が落ち着いたこともあって、貸切バスを手配し、久々の遠出を企画しました。目的地は郊外に位置する陶芸の町<鶯歌>です。あそこで今回の懇親会を開催し、ついでに三鶯の心空間芸術特区も見学に行きました。

鶯歌老街は現在台湾で最も芸術と文化が色濃く感じられる町の代表の一つです。あそこにある店はどれも工芸品や創作品芸で溢れています。

■日本とビデオ通話する事も予定していたので、ネットワークの接続を確保するため、今回は特別に地元のレストランを宴会場を選びました。

## 三鶯の心空間芸術特区

陶器博物館の向こう側に、陶器を展示するために作られたアート公園があります。占有面積はなかなか大きくて、2ヘクタールほどあります。ほとんどの所は芝生ですが、陶器で作られたインスタレーションアートもいくつか設置されています。すべての作品の中で、最も立派なアート作品と言ったら、それは間違いなく写真の中に写った赭土色の高い建築です。このアートワークは“坯”と言って、高さは15メートルにも及びます。木橋から眺めるとその容貌がよく見えます。螺旋状にした見下ろす目の方には入り口が設置されていて、平日は閉鎖されていますが、私がこれの作者と伝えたら、特別に入れてもらいました！本当にラッキーです！



■この建築は、螺旋状の外観と頂上の方に通気口が設置されています。建物の底部に入ってみると、太陽の光が頂上と周りから不規則に差ってきて、聖なる領域にでも入ったかのように感じます。作品の名前“坯”もそのコンセプトから来ています。今回のイベントが楽しくて、素敵な思い出がまたひとつ増えました。

◎入会金は不要◎年会費は不要◎会員の人数60名◎活動内容

\*毎年、総会開催日 台北の名所視察を企画

\*会員の個展、イベントを支援

\*来年の日本での合同展示会の計画

こんにちは。青森江古田会の高木保です。

青森江古田会は、平成19年10月に東北6地区で5県目となる青森県の日本大学芸術学部校友会の支部として誕生しました。

設立総会で発起人代表だった私が支部長に指名され、爾来15年間〈青森江古田会〉としてトコトコ歩んで参りました。

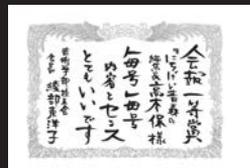
支部発足の為に〈有資格者の人集め〉が大変でした。県内在住で芸術学部を卒業した人はいいいのですが、卒業した後、地元に戻って来なかった人を探し出すのが一苦勞でした。個人情報管理が厳しくなった時期と一緒でしたので、芸術学部事務局から情報を提供して貰う事は出来ませんでした。でも最終的に探し出した名簿から参加する事を了解してくれた県出身者が42名、うち21名が総会に出席し〈青森江古田会〉は発足しました。

支部が出来てから初めての事業は、参加者のひとりで写真学科の講師を務めている和田光弘さんによる写真講座『青森ねぶたの撮り方』でした。青森近辺に住む熱心なアマチュアカメラマンが多数参加して成功だと思ったのですが、何か物足りない…それは〈江古田会〉の会員の参加が少ないからでないか…ということになりました。そこで考え出したのは①会員が自分の制作した作品を持ち寄り展示会を開くこと、②は会員の活動や動向を知らせる記事や、会員の意見、文字による作品の発表などが出来る会報を作ることが企画され、実行に移されました。

幸い私が運営していた『五拾壹番館ギャラリー』というスペースが比較的的空いていたので、時々『会員作品展』を開きました。会員による『個展』が連続して開かれた時などは一時的に「スペース江古田会」と会場名を変えた事もありました。

平成25年には写真学部的女子卒業生有志が作った『あじさい会』が東京と大阪のオリンパスギャラリーで開いているグループ展を青森に招待、青森の写真愛好家に日芸卒業の女子カメラマンの腕前を披露したこともありました。この頃、青森から日芸写真学科へ受験した学生が多かった話は聞いておりません。

②の支部会報は平成21年3月に『にちげい青森』として創刊、現在16号を発行したところでストップしています。平成27年第9号が発行された後の支部長会議の席上、綾部



東洋子校友会会長から『にちげい青森』は「毎号毎号内容とセンスとてもいいです」とのお言葉と会報一等賞の賞状を戴きました。今このことを思うと、まだまだ頑張らなければ…と思っています。

新潟江古田会はこの二年間、コロナ禍のため活動を停止しております。

私も、スタジオの移転や日常の雑務に追われ会報の発行目処も立たず申し訳ございません。

今少し時間をいただいて、幹事さんと相談する予定ですのでご了解ください。

どうぞよろしくお願いします。



◎入会金は必要ですか？

入会金は必要ありません。

◎年会費は払うのでしょうか？

年会費も必要ありません。

◎会員の人数は？

新潟県内には100人以上の日芸同窓生がいらっしゃいますが（わかる範囲で）住所が分かり連絡の取れる方は50人ぐらいです。

◎活動内容は？

年に一回総会と懇親会を開いていますが、この2年間はコロナ禍のため開いておりません。

◎Facebook、ホームページはありますか？

FBはあります。「新潟江古田会」です。

「皆さん今日は」

こんにちは。事務局の松沢です。各支部の皆様にお目にかかれぬ日々が続いておりますが、お元気でいらっしゃいますでしょうか。

さて、南北に長い長野県。今年の春は、7年に一度開催される大型祭事が数多く同時期に開催される予定となっています。長野県の南端に位置する飯田市で行われる「お練りまつり」、諏訪地域で行われる「諏訪大社御柱祭」、安曇野市では「穂高神社 式年遷宮祭」も行われる予定です。長野市ではコロナで1年延期となった「善光寺御開帳」が開催予定、そしてそれに伴い飯田元善光寺も御開帳となります。観光業が盛んな信州。コロナ感染拡大を心配する一方で経済活動の回復にも期待を寄せずにはられない部分もあります。

◇長野江古田会のこと

長野江古田会は平成18年に発足いたしました。初代会長は酒井喜仁さんです。現在、事務局からお知らせをお送りさせていただいている会員数は約300名ほどとなっています。歴代の会長・役員の皆様が築いてこられた活動の基盤をもとに、今後は他支部の活動も参考にさせていただきながら、会員同士の情報交換の場として、また、写真展やスポーツ行事などを実施して交流の場にしていきたいと考えております。中でも若いアーティストの活動を応援したいと考えており、20代30代の若い皆さんの参加をもっともって募っていきたく考えています。Facebookページもありますので、お気軽にご連絡いただけたらと思います。

■長野江古田会

◎入会金 不要

◎年会費 1,000円

◎FACEBOOKページにて近況を報告していく予定です。



# 第16回日藝賞決定

2022年の日藝賞は中村至男氏です。

日藝賞および日藝アンバサダーとして、日藝の広報活動にご協力いただきます。



## 中村至男 プロフィール

川崎市生まれ。1990年美術学科卒業、Sony Music Entertainmentを経て1997年よりフリーランス。グラフィックデザインを中心に、広告、絵本、CI、デジタルコンテンツ、映像、イラストレーション、ブックデザインなどで活動。

2019年、台北 松山文創園區にて初の海外個展『中村至男白選展』を開催。ほか国内外で展覧会多数。

●著書に、絵本『どっとこどうぶつえん』『はかせのふしぎなプール』『たなのうえひこうじょう』『ゆきだゆきだ』『サンタのコ』、『7:14』、『勝手に広告』（佐藤雅彦氏と共著）、『明和電機の広告デザイン』（土佐信道氏と共著）など。

●主な仕事に、21\_21 DESIGN SIGHT「単位展」、アートユニット「明和電機」のグラフィックデザイン、銀座メゾンエルメスウインドウディスプレイ、日本科学未来館、雑誌『広告批評』（1999年）、佐藤雅彦氏とのプロジェクトに、PlayStationゲーム『I.Q.』、NHKみんなのうた『テトペッテンソン』など。

●受賞に、毎日デザイン賞、亀倉雄策賞、東京ADC賞、東京TDC賞、最も美しいドイツの本2019、ニューヨークADC銀賞、ボローニャ・ラガッツィ賞優秀賞、など。

オールナイトニッポンGOLD

## 日藝創設100周年特別番組

2019年に芸術学部がニッポン放送と締結した「連携・協力に関する基本協定」を契機とする一連の日藝創設100周年特別番組が昨年放送されました。

日芸祭最終日(11/5)に放送した「立川志らくのオールナイトニッポンGOLD」では、三遊亭白鳥さんを中継レポーターに大学構内から生中継を行い、学生たちが日芸祭の疲れなど全く感じさせない明るい元気な声を届けてくれました。そして、同日深夜に放送された「黒島結菜のオールナイトニッポン」では写真学科とデザイン学科の4年生がリモート出演し、現在の大学生活の様子や卒業後のことなどを黒島さんと語り合いました。年末(12/29)に放送した「中村獅童と日芸生」は放送学科の録音スタジオでの公開収録でした。獅童さんからのアドバイスに真剣に耳を傾ける学生の姿や校友会副会長の原一平先生との師弟対談が印象に残りました。

出演者全員が日芸ゆかりの方で、制作スタッフには



OB・OGが参加し、番組内で使用したジングルやCMは現役生が制作するなど、日芸の先輩後輩の結束力や日芸らしいクリエイティビティを存分に発揮することができました。

最後に紙面をお借りして、この周年記念特番に協賛いただいた芸術学部校友会にお礼申し上げます。



## 渡邊くるみ (写真)

私は2年次編入で写真学科に入りました。編入したことが私の人生の転機です。一眼レフカメラを触ったことさえもなかったけれど、直感で面接を受けて運良く入学することになりました。右も左もわからない私の世話を焼いてくれた友達や先生、助手さんのおかげで知識や技術を身につけることができました。みんなに刺激をもらいながら新しいものごとを吸収する毎日が楽しくて幸せでした。



4月から報道の道に進みます。就職先を先生や友人に伝えると口を揃えて意外だねと言われました。誰よりも自分自身が1番驚いています。急に編入を決めたり、意外な就職先を選ぶなど、人生の岐路に立たされたとき突拍子もない選択をしてきました。これからの人生も予測できなくて楽しみです。

これから記者として、世界共通の言語といっても過言ではない写真や映像で文章がなくても人の心に伝わるものを撮りたいです。

## 小森航平 (映画)

「何がしくて、己はここにやってきた」  
休憩中に、教授が話しかけてきたのを今でも覚えています。

当時、編入学したばかりの私はやりたいことが定まっておらず、なぜ創作したいのか、何が作りたいたかが漠然としていて、輪郭のある言葉で教授に答えることができませんでした。このことがきっかけとなり、自分にとっての「創作」を模索する日々が始まりました。

今思うと、日芸での日々は自分を取り戻す期間でした。人とぶつかることが苦手だった私にとって、創作は心の砦でした。私は自分に蓋をする癖がありましたが、創作は平等で自由なものでした。己との葛藤の果て、絞り出された「ほんとう」が作品に落とし込まれ、それを人に見てもらうことで、初めて人と対話できた気がしました。

一方で、創作は「私」だけのものではないと日芸では学びました。卒業後はアニメ業界に行きますが、これからの創作はより「社会」を意識し、誰かに寄り添える作品を手掛けたいと思います。



## 佐伯あかり (美術)

教育学、心理学、哲学、社会学……と悩みに悩んで美術を志したのは4年前のことです。日芸での学びを経て、芸術がそれら全てに通じていることを理解しました。興味や関心が広がりすぎて收拾がつかなくなってしまった私が芸術という一つの視座を中心に据える術を身につけることができたのは大きな収穫です。



制作の面では完全オンライン授業となった3年目の前期を境に、版画専攻で学びつつ専門的な工房や道具を必要としない手芸的な仕事にも取り組んでいます。そうした表現への挑戦を温かく見守りつつアドバイスや批評をしていただける環境でマイペースに制作を続けることができとても幸せでした。

この4年で多くを経験し、その度に知りたいこと、考えたいこと、試したいことはますます増えていきました。春からは大学院で引き続きお世話になりつつ研究、制作を続けます。芸術内外の境界周辺をうろろしながら私と私以外の過去を、今を、未来を考えていきます。

## 福田唄菜 (音楽)

「NO MUSIC, NO LIFE !」  
両親の影響もあり、生まれた瞬間から当たり前のように生活に音楽がある環境で育ちました。幼少期から様々な楽器も習ってきましたが、中でもトランペットに夢中になり日芸音楽学科に進学しました。



常に様々な芸術的刺激を受けながら、同時に中学・高校の教職をとり、豊かな教養を身につけることができたと思います。吹奏楽やオケの授業では真髄を極めるべく音楽の解釈の幅を広げられ、サークルBlue Artではジャズ演奏を満喫することができました。また、日大130周年記念式典では、帝国ホテルで演奏する栄誉にあずかり、大変実り多き四年間でした。お導き頂いた先生方や先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。

私は市役所職員として社会人をスタートしますが、市政と音楽を繋げるような活動もしてみたいと考えています。そしていつか、校友会のお仲間アンサンブルも披露してみたいです。

## 山田祥平 (文芸)



「○○さんと交際してるんだけど、他のやつには内緒にしてほしい」

在学中、上のような文言を四人の友人から言われました。律儀に秘密を守っていたため人間関係で板挟みになることも多く、「なんと恋愛の面倒臭いこと！」と嘆息してばかりの日々でした。しかしながら、そんな友人たちのおかげで恋情に振り回される人間の美しさを知り、気づけばラブコメに特化した物書きになっていました。

私が日芸で得たのは、よき師とよき友でした。一癖も二癖もある個性たちとぶつかり合うことで、自分自身の感性はかたちを成したように思います。ゼミや小説の合評に限った話ではありません。日常の何気ないやり取りが、私を物書きとして成長させてくれました。

だからこそ、この場を借りて日芸に関わったすべての方にお礼を申し上げようと思います。先生方、ゼミ員、麻雀仲間。そしてだれより、この文面に掲載許可をくれた四人の親友に最大級の感謝を。

## 大迫美乃莉 (演劇)



部活で役者・演出・脚本など一通り経験した末、舞台プロデュースに関心を持ち企画制作コースに入学しました。先生方から得られる鮮度の高い情報や熱量をもった友人に触発され、音響ゼミに所属したり、日芸祭で花火を打ち上げたり、外現場で制作助手をしたり、興味の赴くままに挑戦を重ねた4年間でした。

「演劇は社会のカナリアである。」

毒ガス検知役を担っていたカナリアに演劇を準えたこの言葉を授業で耳にした時、強烈に胸に響くものがありました。その真意を咀嚼しきるには未熟ですが、私が演劇を面白いと思う理由が凝縮されているからだと思います。コロナ禍で団体創作である舞台を上演するリスクと意義の狭間でもがき続けた結果、卒業制作では有難い評価をいただくことができました。今後は助手として勤務しつつ、舞台マネジメントの研究に精進して参ります。校舎・元号・日常と、変化の連続の日々を豊かにしてくれた友人や日芸、家族に感謝しています。

## 笹川聖太 (放送)



「おしゃべり」から「伝える」へ

4年間の大学生活で私はひとつの気づきを得ました。私は幼い頃からおしゃべりが大好きで、高校では放送部に所属し、アナウンス部門の選手としておしゃべりの技術を真剣に学んでいました。それだけでは飽き足らず、高校卒業後は放送学科でおしゃべりを学ぼうと思い進学しましたが、入学後は制作に惹かれるようになりました。友人たちと「面白ってどんなこと?」「どうすれば形にできる?」と真剣に考える実習の日々はとても楽しかったです。

「伝えたいことをどのようすれば上手に伝えられるのか」。おしゃべりや制作はあくまで伝えるためのひとつの手段だと考えるようになり、3年生に進級する頃には、私が好きなことは「伝える」ことだとはっきり分かるようになりました。放送学科の学生だったからこそ自身の想いに気づくことができたと思います。4年間の貴重な経験と素敵な思い出をありがとうございました。

## 近藤あかり (デザイン)



美大受験とそして自分と向き合い、必死に日芸を目指した高校時代のことを今でもはっきりと覚えています。

日芸生活は出会いの4年間でした。特に他学科との関わりは私という人を確立させていく上で大切な過程であったと感じています。

夢のこと、将来のこと、家族のこと、仲間のこと、もちろんデザインのこと。

真剣に考え、笑い、泣いて、怒って、許して、許されて、また笑って。

こんなに感情いっぱいの人間らしいことはこの先あまりできないことのような気がします。

貴重な瞬間を経験させてくれた日芸という居場所に心から感謝しています。

4月から車のデザイナーとしての活動が決まりました。

人に寄り添うモノのデザインは日芸で培った“人間らしさ”を存分に生かせる気がしています。これからも自分にそして世界に全力で向き合っていきたいと思っています。



## 写真学科

### ■令和3年度でご退職なさった先生方

大学院を原直久先生（S43年度卒）、学部を赤木重文先生、河野純一先生がご退職されました。長い間ありがとうございました。

### ■日本大学芸術学部写真学科教員作品展「SKY IV」開催

12月3日から12月16日までソニーイメージングギャラリー銀座で「SKY IV」を開催しました。出品者は秋元貴美子先生、穴吹有希先生、重松駿先生です。

### ■秋元貴美子写真展「都市と自然のエレメンツ」開催

新潟県南魚沼市浦佐の池田記念美術館で1月22日から4月14日まで新作を含む、初期の作品から現在までの作品436点を展示しました。個展で何回にも分けて発表されていた作品を一堂に会して全体像を見たときに秋元先生が取り組み、目指していたものが分かる写真展でした。ギャラリートーク、写真教室も開催されました。

### ■「大地に根を張り、記憶を紡ぐ」写真展開催

2月20日から3月5日まで北海道の東川文化ギャラリーにおいて、この大きなタイトルのもと、八木元春助教「帷」、藤原恒平助手「trace of humanity」、山田凌助手「時を紡ぐ」と3人が同時に個展を開催しました。彼らは東川町で開催される写真甲子園の出身で、写真学科に勤務しながら作家活動を続けています。期間中には、オンライントークイベントとアーティスト・イン・レジデンスを行いその作品も展示されました。



### ■GRIP2022 日本大学芸術学部写真学科学生選抜作品展 開催

開催日時：6月23日（木）～6月29日（水） 平日：10:00-18:00（最終日は15:00まで） 土/日/祝：11:00-18:00  
場所：ポートレートギャラリー（新宿区四谷）

3年生と4年生の7名の作品展示です。ご覧ください。

### ■日本大学芸術学部写真学科卒業生の会「新写真派協会」

新写真派協会のホームページでは随時、最新情報および卒業生の写真展案内などをご紹介しています。ぜひご覧ください。

<http://shinshashinha.com>

### ■写真学科公式ホームページ/Twitter

写真学科の直近情報は下記をご覧ください。

公式HP <https://www.nuaphoto.com>

公式Twitter @nichigei\_photo



## 映画学科

■令和3年度映画学科各賞が、次の卒業生の論文・計画・制作に授与されました。

☆第49回渡辺俊平記念賞（映像表現・理論）柏崎 茜

☆第24回答見有弘賞（映像表現・理論）日原朋哉

☆第15回大竹徹賞（映像表現・理論）福岡佐和子

☆第16回八木信忠賞（録音）吉田夏菜

☆第46回映画学科奨励賞（映像表現・理論）阿部佑紀、前田青空、原田香林、（監督）近藤将太、（撮影）遠藤 匠、（録音）山田 廉、（演技）松本偉大

☆第31回映画学科選奨（映像表現・理論）片山玲成、佐藤優希、野口夏鈴、（監督）荒川千佳、（撮影）石川美優、（録音）渡邊 円、（演技）富名腰拓哉

☆第29回映画学科特別賞（伊藤忠ケーブルシステム株式会社提供）（映像表現・理論）関口真輝、石川夏海、丹羽真沙希、（監督）村井琉晟、（撮影）館野夏葵、（録音）金子青葉、（演技）中島百依子

☆第19回アトライティング賞（東芝ライテック株式会社提供）（撮影）山口菜々子〔照明にたいして〕

☆第21回映画学科コダック賞（コダックジャパン提供）（監督）金子信弦、林 莉亜、（撮影）山口起世、岡田冬馬、（録音）徳田和真、早坂由希乃、（演技）増本 尚、高橋美紅

☆第7回三善賞〔(株)三善提供〕（演技）酒井文字

■令和3年度をもちまして、次の先生が映画学科を退職されます。映画学科発展にご尽力いただきありがとうございました。（敬称略）

・学部：曾根幸子、谷川創平、中島美緒、野地朱真、森山朋絵  
・大学院映像芸術専攻・映画分野：村山匡一郎

■令和4年度より、次の先生が新しく映画学科の講座を担当します。（敬称略）

・学部：鳩飼末緒（映画作品研究）、具珉炯（映画作品研究）、樋口尚文（映像特別講座）、山下宏洋（前衛映画史）、津堅信之（アニメーション研究）、占部信太郎（CGI演習）、山本タカアキ（映画技術）、熊倉良徳（映画技術）  
・大学院映像芸術専攻・映画分野：晏 妮（映画特殊研究）、川崎賢子（芸術学特論）、瀬島久美子（映像メディア特殊研究）



## 美術学科

■はなう美術振興財団 写実画家育成助成金に在学生2名が選出。写実絵画を制作している学生からは、大学院1年生の宋躍偉君と学部2年生の松原怜之君が奨学生として選ばれました！■神山財団 第8期芸術支援プログラム奨学金に、大学院1年生の宋躍偉君が奨学生として選ばれました。■月刊美術主催のコンクール、「美術新人賞デビュー2022」に学部3年生のKAYAさんが奨励賞を受賞、金子貴富助手が入選しました。(泰明画廊(銀座)、ギャラリー和田(銀座)(2月28日(月)~3月5日(土))) ■SAN-AI GALLERYにて鈴木志歩臨時職員が「GEE 2022 [金の卵展]」に出品しました。■銀座ギャラリーあづまにて開催のグループ展「第11回・春を想う展」に坪井麻衣子准教授が出品します。(3月21日(月)~3月27日(日)) ■第74回「第74回展新人選抜者・第15回春季二紀」展新人選抜者・第15回春季二紀展に吉岡正人非常勤講師、金子貴富助手が出品します。(東京都美術館:3月25日(金)~3月31日(木)) ■氷川参道ギャラリーにて大山智子元助手、鈴木志歩臨時職員、金子貴富助手が参加するグループ展が開催されます。■銀座、日動画廊にて福島唯史教授が出品する第59回太陽展を開催します。(5月25日(水)~6月7日(火)) ■高島屋 美術画廊にて福島唯史教授が出品するグループ展「第2回奏彩—7つの視点—」が開催されます。(6月8日(水)~6月14日(火)) ■ギャラリーあらきにて坪井麻衣子准教授の個展が開催されます。(7月30日(土)~8月8日(月)) ■銀座、創英ギャラリーにて金子貴富助手が出品するグループ展「八艘の船」展が開催されます。(7月20日(水)~7月26日(火)) ■日本橋高島屋にて瀬島匠教授が出品する展覧会「十果会」が開催されます。■医学町画廊にて鈴木志歩臨時職員の個展が開催されます。(8月20日(土)~8月28日(日)) ■国立新美術館にて第96回国展に美術学科職員山崎櫻子さんが出品予定です。(5月4日(水)~5月16日(月)) ■FEI ART MUSEUM YOKOHAMAMAにて美術学科職員山崎櫻子さんがグループ展「港 ヨコハマ 夏の市 2022」に出品予定です。■銀座、Oギャラリーにて美術学科職員山崎櫻子さんの個展が開催されます。(9月26日(月)~10月2日(日)) ■鞍掛純一+日本大学芸術学部彫刻コース有志が、越後妻有 大地の芸術祭 2020にて作品発表およびワークショップ・上演等で参加いたします。(令和4年4月29日~11月6日) ■彫刻専攻飯田竜太准教授が参加するNerhol個展が新宿伊勢丹にて開催されます。(4月6日~5月6日まで)



## 音楽学科

## ●令和3年度卒業論文要旨発表会

オンデマンドにて卒業論文が優秀であった学生による卒業論文要旨発表会が開催されました。

〈音楽教育コース〉原田智美、久田夏帆、大久保愛夏、坂田美彩  
〈情報音楽コース〉松本はるか、木村和希、土岐祐輔

## ●令和3年度卒業演奏会・修了演奏会

2022年3月14日(月)練馬文化センター・小ホールに於いて、卒業演奏・修了演奏及び卒業作品が優秀であった学生の出演する卒業演奏会・修了演奏会が開催されました。

〈作曲コース〉杉山凌(作品発表)、吉原詩音(作品発表)  
〈声楽コース〉岡本唯子(ソプラノ)、松澤大(バリトン)、高橋萌華(ソプラノ)、橋口美玖(メゾソプラノ)、田辺七星(ソプラノ) 〈ピアノコース〉平林未海、上野まりな、増山美咲希、熊倉響希 〈弦管打楽コース〉片岡幸音(打楽器)、永井さゆり(クラリネット)、中村美月(フルート)、井口拓海(オーボエ)

## ●日本ピアノ調律師協会主催 第23回新人演奏会

2022年5月2日(月)東京文化会館・小ホール  
ピアノ独奏 熊倉響希

## ●ヤマハ管楽器新人演奏会

2022年6月9日(木)ヤマハホール  
第26回木管楽器部門 オーボエ独奏 井口拓海

## ●第39回打楽器新人演奏会

2022年5月3日(火)~4日(水)和光市サンアゼリア 大ホール  
打楽器独奏 片岡幸音

## ●令和3年度で退職なさった先生は次の通りです。

長い間、ありがとうございました。

丸山繁雄、大槻秀一、土野研治、八重田美衣、井出美恵子、大沼百合子、永戸恭子、新村和子、藤村京子、河村幹子、神田寛明、佐藤紀雄、佐藤潔(敬称略)

## ●今年度より次の先生が新たに講座を担当しております。

久保田慶一、坂元勇仁、吉川文、岩波孝昌、谷川明、渚智佳、本田聖嗣、山口真広、橋爪晋平(敬称略)



## 文芸学科

文芸学科生+卒業生が続々と受賞！（学年は受賞時）

### ■山賀塩太郎さんがファンタジア大賞で銀賞を受賞

文芸4年の山賀塩太郎さん（ペンネーム）が、小説「完璧な佐古さんは自ら落ちぶれていくようです」で第34回ファンタジア大賞で銀賞を受賞しました。受賞作は富士見ファンタジア文庫から2022年1月に刊行されました。

### ■宮田彬さんが電撃小説大賞・メディアワークス文庫賞を受賞

文芸4年の宮田彬さん（ペンネーム：人間六度）が『きみは雪を見ることができない』で「第28回電撃小説大賞 メディアワークス文庫賞」を受賞しました。「第9回ハヤカワSFコンテスト・大賞」とあわせて連続受賞の栄誉です。

### ■松尾晴さんが織田作之助青春賞を受賞

卒業生の松尾晴さんが「母を迎える」で「2021年度織田作之助青春賞」を受賞しました。受賞作は2022年1月発売の「三田文学 2022年冬季号」に掲載されました。

### ■松本あずささんがポプラ社小説新人賞で奨励賞を受賞

文芸4年の松本あずささん（ペンネーム）が、小説「カンパネラの音は聴こえるか」で第11回ポプラ社小説新人賞の奨励賞を受賞しました。

### ■呉須Gothさんが「pixivノベル大賞～2021Summer～」イラスト部門にて、pixivノベル賞を受賞

呉須Gothさん（上原彩果・文芸3年）が「無償の原則」で「pixivノベル大賞～2021Summer～ イラスト部門」のpixivノベル賞を受賞しました。

### ■八木優羽亜さんが深大寺恋物語・審査員特別賞を受賞

八木優羽亜さん（文芸3年）が「碧眼のだるま」で「第17回深大寺恋物語」審査員特別賞を受賞しました。

### ■高橋実里さんの作品が雑誌『ユリイカ』の「今月の作品」欄に掲載

高橋実里さん（文芸学専攻前期課程2年）の詩作品「空へ」が、『ユリイカ』2022年2月号（青土社）の「今月の作品」欄に掲載されました。

### ■第三十二回伊藤園お～いお茶新俳句大賞で複数受賞

205万7963作品の中から、河野奈杏さん（文芸3年）が佳作特別賞、橋本あゆりさん（同3年）・錦織令佳さん（同1年）が佳作を受賞しました。



## 演劇学科

### ■コロナ3年目 学科新体制1年目

新型コロナウイルス感染症と向き合いながらの授業運営が3年目を迎えました。演劇学科は学科独自の授業運営ガイドラインを設けるなど、感染対策を徹底しながら学生と力を合わせ、演習、実習授業を対面で実施しております。

また感染拡大以降、オンラインでの実施が中心となっていた学科講義科目も、対面での実施再開を目指し、施設レイアウトの変更など鋭意努力を行っております。

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、学科主任として学科運営の中心を担ってきた藤崎周平教授が昨年9月任期満了により退任され、新しく小林直弥教授が学科主任となりました。

演劇学科も引き続き学生ファーストの精神で、これまで通り強い意志を持って世界的なパンデミックの難局を乗り越えたいと学科一同頑張っています。引き続き校友の皆様の応援もよろしくお願い致します。

### ■伊藤雅子先生 読売演劇大賞最優秀スタッフ賞受賞

舞台美術実習Ⅲや総合実習をご担当頂いている演劇学科非常勤講師の伊藤雅子先生が、演劇文化の振興のために1992年に創設され29回目を迎えた読売演劇大賞において、「反応工程」（千葉哲也演出）「ジュリアスシーザー」（森新太郎演出）「友達」（加藤拓也演出）の舞台美術に対して、最優秀スタッフ賞を受賞されました。演劇学科としても大変喜ばしいことです。伊藤先生、おめでとうございます。

### ■令和4年度 演劇学科総合実習前期日程について

- ・総合実習ⅡA（3年演劇）7月7日（木）～7月9日（土）
  - ・総合実習ⅠA（2年演劇）8月4日（木）～8月6日（土）
- 江古田校舎北棟中ホールでの上演を予定  
（※上演形態、日程等 変更の可能性あり）  
問い合わせ先：演劇学科事務室 03-5995-8260

### ■演劇学科公式HPをリニューアル

学科公式HPをリニューアルしました。  
是非ご覧になってください。

<https://nichigei-engeki.com>



## 放 送 学 科

## ■日藝祭スタジオ企画で初の生配信を実施

昨年2年ぶりに開催された日藝祭(11/3~5)は、新型コロナ感染対策のため来場者は学部在学生のみで、オンラインを利用したハイブリッド形式での開催となりました。

初の開催形式の中、放送学科実行委員会が主催する日藝祭恒例のスタジオ企画が実施されました。本来であれば一般来場者にスタジオ企画を観覧してもらおうのですが、先の理由でそれが叶わないため、今回はスタジオ企画初の試みとしてYouTubeでの生配信を3日間行い、録音スタジオからは17本のラジオ番組を、テレビスタジオからは3本のバラエティ番組を多くの視聴者に届けました。

学生団体の活動制限が緩和されたのが10月に入ってからだったため、本番までの準備期間は十分ではありませんでしたが、放送学科の学生有志が実習の枠を超えて番組を企画・制作し、初の試みを見事に成功させました。また、縦横のつながりがなかなかもてない学生生活が続いていましたが、この日藝祭でようやく学生同士の親交を深められました。

## ■「日藝の卒博」放送学科はオンラインで開催

卒業制作・卒業論文の展示を行う「日藝の卒博」が3/13~20に開催されました。放送学科は卒業研究(映像作品、音響作品、脚本、アナウンス、朗読、ルポルタージュ、卒業論文)をYouTubeやウェブサイトに出展しました。昨年度に比べ出展した卒業研究のジャンルが増え、放送学科の幅広い専門領域の中で学んだ4年生の成果を、在学生に限らず一般の方々にも広くご覧いただきました。

## ■2021年度の授業日程を無事に終えました。

前回の会報でも報告しましたが、前期に引き続き、後期の授業も「実習・演習科目は対面、講義科目はオンライン」で行いました。スタジオや機材を使っつての実習・演習科目は、感染対策を十分に行って実施し、幸い感染報告はなく、全ての授業日程を無事に終えることができました。

2022年度も従来通りとはいかないかもしれませんが、学科の設備は十分使えるよう配慮して実習・演習を行っていただけるよう教職員・学生が一体となって感染対策に取り組んでいきます。



## デ ザ イ ン 学 科

## ■笠井則幸教授がTypography Annual 12で受賞

アメリカ、ベルモントに拠点を置くデザイン雑誌「Communication Arts」が主催する「Typography Annual 12」のコンペティションにおいて笠井則幸教授が制作した「Typeface Potori」がTypeface部門にてExcellent Awardを受賞しました。Typography Annualは、タイプフェイス部門をはじめとして、広告やポスター部門をはじめ15部門あります。世界から1259点のエントリーがあり、入選、入賞が126点選ばれ、今回はその中での受賞となりました。

## ■モレスキンと日本大学芸術学部が連携するクリエイティブ・アワードを開催

モレスキンと日本大学芸術学部はパートナーを組み、学生の創造的な可能性を引き出すためのアートコンペティションを実施し、デザイン学科、美術学科、写真学科の学生が参加しました。受賞作品は2022年2月15日(火)までモレスキン銀座アトリエ(銀座ロフト5F)で展示の後、2022年4月16日(土)から5月7日(土)まで本学、芸術学部のA&Dギャラリーなどに巡回展示されました。

## ■ウィンドウディスプレイを本学科3年の右川大河さんが制作

銀座和光のウィンドウディスプレイをデザイン学科3年の右川大河さんが制作しました。バレンタインをテーマにした今回の作品は動くディスプレイに挑戦。赤い円環をエレメントにした印象的なデザインに仕上がり、道ゆく人々の注目を集めました。展示は2022年1月13日(木)から2月14日(月)まで行われました。

## ■若原一貴教授の設計住宅が専門誌に掲載される

泰文館から発行されている雑誌「住む。」冬号にて、若原一貴教授が設計した住宅が掲載されました。特集「小さな家の育て方」と表紙写真にご注目ください。また同誌で若原教授が連載している「東京、名もなき住宅を訪ねて。」も併せてご覧ください。

## ■池田光宏教授の展覧会

2022年6月20日(月)から7月2日(土)まで、芸術学部A&Dギャラリーにて池田光宏教授の個展を開催しました。2020年に本学教員に就任した池田教授が、近年取り組んでいるアート・プロジェクトのインスタレーションが展示公開されました。

## 日藝の卒博が開催されました

令和4年3月13日(日)～3月20日(日)

令和3年度の卒博は対面とオンラインのハイブリッドで開催されました。

下記サイトにて一部の作品が期間限定で引き続き掲載されています。

<https://www.art.nihon-u.ac.jp/about/sotsuhaku/>

## お悔やみ

故人のご逝去を悼み、謹んでお悔やみを申し上げます。

- ・芸術学部校友会顧問（前会長）の綾部東洋子さん（演劇40年度卒）が2021年10月15日に逝去されました。第10代芸術学部校友会会長として校友会の発展にご尽力を頂いておりました。
- ・佐賀江古田会前会長の音成日佐男さん（放送45年度卒）が2022年3月31日にご逝去されました。佐賀江古田会の設立、発展にご尽力を頂いておりました。また、音成さんは日本公衆電話会支部長としての活動に対して叙位勲章旭日双光章を受章されました。



## 新年会が中止になりました

令和4年度新年会を1月15日（土）江古田校舎にて対面とオンラインのハイブリッドで開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み中止になりました。

# 令和3年度 校友会常任幹事名簿

所属	役職	氏名	卒年
放送	会長	田上 竣詞	53
映画	副会長	松島 哲也	57
写真	副会長	高橋 則英	52
写真	副会長	田中 光子	53
演劇	副会長	原 一平	48
デザイン	副会長	千北 正	52
デザイン	名誉会長	木村 政司	53
映画	顧問	八木 信忠	34
放送	顧問	野田 慶人	49
音楽	監事	渡辺 圭一	51
放送	監事	堤 さくら	H6
旧制	常任幹事	桜井 理治夫	専25
写真	常任幹事	原 直久	43
写真	常任幹事	鯉江 充	54
写真	常任幹事	西垣 仁美	58
写真	常任幹事	服部 一人	58
写真	幹事	萩原 行子	32
写真	幹事	小泉 定弘	41
写真	幹事	南岡 秀男	46
写真	幹事	浅井 謙	54
写真	幹事	鈴木 隆史	58
写真	幹事	丹羽 寿成	58
写真	幹事	大室 朋信	H8
写真	幹事	田中 和実	H16
写真	幹事	打林 俊	H18
映画	常任幹事	山田 顕喜	38
映画	常任幹事	山本 英史	57
映画	常任幹事	浦井 孝行	45
映画	常任幹事	宮澤 誠一	46
映画	常任幹事	鳥山 正晴	59
映画	幹事	村田 定之	37
映画	幹事	阿部 靖夫	44
映画	幹事	中川 京子	53
映画	幹事	廣瀬 眞奈実	60
映画	幹事	川嶋 尚士	H1
映画	幹事	齋藤 裕人	H1
映画	幹事	奥野 邦利	H4
映画	幹事	上倉 泉	H5
映画	幹事	加藤 順子	H6
映画	幹事	長部 純平	H18
映画	幹事	島田 和行	H19
美術	常任幹事	小橋 克史	H1

所属	役職	氏名	卒年
美術	常任幹事	飯田 竜太	H15
美術	常任幹事	柴田 直起	H30
美術	幹事	根本 忠緒	38
美術	幹事	濱口 泰己	43
美術	幹事	勢マ 修	46
美術	幹事	設楽 俊	H18
美術	幹事	大槻 孝之	53
美術	幹事	福島 悟史	63
美術	幹事	鞍掛 純一	H1
美術	幹事	笹井 祐子	H1
美術	幹事	大橋 朋美	H21
音楽	常任幹事	大槻 秀一	53
音楽	常任幹事	西尾 敦子	H1
音楽	常任幹事	川上 央	H7
音楽	常任幹事	竹田 香子	H19
音楽	幹事	綿村 松輝	38
音楽	幹事	加藤 明	45
音楽	幹事	松井 保雄	47
音楽	幹事	今泉 久	50
音楽	幹事	清水 泰博	54
音楽	幹事	小川 哲夫	55
音楽	幹事	白井 隆子	56
音楽	幹事	田代 幸弘	56
音楽	幹事	田村 和夫	59
音楽	幹事	大内 国晴	H2
音楽	幹事	駒沢 大介	H10
音楽	幹事	三戸 勇氣	H11
文芸	常任幹事	生沼 剛	41
文芸	常任幹事	河野 直樹	50
文芸	常任幹事	大塚 実	53
文芸	常任幹事	青木 敬士	H4
文芸	幹事	小澤 英輔	36
文芸	幹事	中川 淳男	43
文芸	幹事	佐々木 誠	54
文芸	幹事	清水 正	46
文芸	幹事	武富 佐知子	50
文芸	幹事	吉田 克也	51
文芸	幹事	上田 薫	62
文芸	幹事	谷村 順一	H9
文芸	幹事	上坪 裕介	H16
演劇	常任幹事	三原 治	54
演劇	常任幹事	喜多村 淳子	H2

所属	役職	氏名	卒年
演劇	常任幹事	木村 光太郎	H13
演劇	常任幹事	山口 英峰	H13
演劇	常任幹事	大河内 薫	H17
演劇	幹事	福田 章子	55
演劇	幹事	生井 将雄	59
演劇	幹事	橋本 芳孝	H1
演劇	幹事	宇治 陽子	H4
演劇	幹事	大槻 悟史	H4
演劇	幹事	青木 拓也	H17
演劇	幹事	南 香織	H17
演劇	幹事	阿部 健一	H24
演劇	幹事	松尾 愛	H24
演劇	幹事	安藤 樹里	H28
放送	常任幹事	森澤 広明	54
放送	常任幹事	島岡 唯信	63
放送	常任幹事	安部 裕	H2
放送	常任幹事	茅原 良平	H13
放送	幹事	森田 雅行	50
放送	幹事	吉川 元	52
放送	幹事	林 誠	54
放送	幹事	金 龍郎	59
放送	幹事	松井 篤	59
放送	幹事	久保田 哲司	60
放送	幹事	八巻 裕	60
放送	幹事	稲垣 眞一	H4
放送	幹事	河輪 三奈美	H21
放送	幹事	佐伯 駿介	H26
デザイン	常任幹事	片岡 義和	52
デザイン	常任幹事	長瀬 浩明	63
デザイン	常任幹事	長坂 淳	H9
デザイン	常任幹事	荒井 弘美	50
デザイン	幹事	中島 安貴輝	40
デザイン	幹事	桑原 淳司	49
デザイン	幹事	佐藤 明彦	51
デザイン	幹事	肥田 不二夫	51
デザイン	幹事	佐藤 徹	H2
デザイン	幹事	大沼 敦	H3
デザイン	幹事	笠井 則幸	H7
デザイン	幹事	石田 純之助	H8
デザイン	幹事	布目 幹人	H11
デザイン	幹事	谷口 聡子	H15



# 日本大学芸術学部校友会支部 「関東地区東京江古田会(仮)」準備委員会発足!

この度、関東地区の卒業生の方を対象に、校友会支部準備委員会の  
チャーターメンバーが「関東地区東京江古田会(仮)」を設立します。

## 懇親会などで仲間と再会!

OB・OGの方にお声掛けをさせております。  
本年7月以降発足の総会、懇親会を企画!  
詳細は別途告知予定! 続報をお待ち下さい。



日芸卒の  
関東民よ  
来たれ!

参加のお問合せはコチラ

昭和59年度卒 生井将雄(なまいまさお)(演劇学科)

連絡先: 090-1844-2908 Email: tokyo.ekodakai@gmail.com

## 日本大学芸術学部校友会各支部(江古田会)連絡表

各支部では参加者を募っておりますので是非皆様のご連絡をお待ちしております。

支部名	連絡窓口	卒業学科年度	連絡先
北海道江古田会	氏家 曹一	放送S52・1977年度卒	090-3468-6657
青森江古田会	高木 保	演劇S32・1957年度卒	0177-77-7708
秋田江古田会	仙北屋 昭弘	音楽S54・1979年度卒	090-2954-2283
岩手江古田会	佐藤 剛	演劇S53・1978年度卒	0197-25-5497
宮城江古田会	桑折 洋一	放送S55・1980年度卒	090-3752-8833
山形江古田会	横倉 晋也	美術S52・1977年度卒	023-631-8040
ふくしま江古田会	吉田 公之	美術S39・1964年度卒	090-5845-1724
新潟江古田会	増井 伸一	写真S48・1973年度卒	025-233-3910
長野江古田会	三浦 博之	放送S49・1974年度卒	0263-46-2583
愛知江古田会	藤田 勝	演劇H9・1997年度卒	090-1783-5103
石川江古田会	干場 文夫	音楽S50・1975年度卒	090-6273-4982
岡山江古田会	藤井 一也	文芸S53・1978年度卒	090-3177-0334
福岡江古田会	飛嶋 慶一	写真S44・1969年度卒	090-6953-5543
佐賀江古田会	光野 忠利	映画S40・1965年度卒	090-9659-0952
熊本江古田会	奥村 隆志	写真S43・1968年度卒	090-7169-2909
宮崎江古田会	米倉 史朗	写真S52・1977年度卒	090-1080-8082
鹿児島江古田会	堀之内 隆	放送S49・1974年度卒	090-3739-7374
中国江古田会	馮 建国	院H9・1997年度卒	—
台湾江古田会	林 舜龍	美術S61・1986年度卒	—
韓国江古田会	イ サンユン	院H8・1996年度卒	—

日芸校友会では、この度、有志の皆様から  
寄付を募ることと致しました。

1口3千円で何口でも寄付を受け付けております。

寄付金は校友会活動に有効に使わせて頂きます。

振込先などのお問い合わせは日芸校友会事務局まで。

### 住所変更等のご連絡につきまして

住所等の変更がありましたら校友会事務局までメール、HP、お電話、または会報に同封されている総会  
はがきにてご連絡ください。

市町村区の合併等で番地が変更になられた場合もご連絡をお願いいたします。

校友会事務局 電話 (03) 3554-5363

メール ekoda.koyu@gmail.com

HP <https://koyu.art.nihon-u.ac.jp/>

(トップページの“CONTACT”より「登録情報の変更」フォームにご入力ください)

### 編集後記

学生が編集する「日本大学新聞」は、一月号において、前理  
事長が起訴されるなどの一連の事件について、「再生への苦  
闘 疑念突き付けられた『自浄能力』」「専横招いた組織風土  
にこそメスを」と、不祥事に向き合う記事を掲載しています。  
悪質タックル事件の際には不祥事に触れられなかった日大新  
聞の再起動を感じます。失われた校友会の信頼も、同様に回  
復していかなければなりません。(青木)

- 発行人 田上 竣詞
- 編集人 田中 光子
- 会報編集委員 山本 英史、鯉江 充、青木 敬士
- 表紙写真 写真令和3年度卒 八城寛武  
『四季彩 ～ Four seasons Color ～』
- デザイン監修 平林 直人
- 印刷所 江戸クリエート株式会社  
東京都文京区本郷 3-43-16 コア本郷ビル  
電話 03-3814-1225

8つのアート1つのハート

**N**  **U**  
Nihon University College of Art  
**A r t**

日本大学藝術学部

日本大学芸術学部校友会報・第108号

2022年春季号 ● 令和4年5月発行 ●

非売品

不許可転載

●発行所

日本大学芸術学部校友会  
〒176-8525 東京都練馬区旭丘 2-42-1  
日本大学芸術学部内  
電話 (03) 3554-5363  
事務担当 星野 祥子

URL : <https://koyu.art.nihon-u.ac.jp/>

メールアドレス : ekoda.koyu@gmail.com



8つのアート1つのハート

# 日本大学藝術学部

Photography/Cinema/FineArts/Music/LiteraryArts/Theatre/Broadcasting/Design

◆ 大学院 芸術学 研究科 ◆

◇ 博士前期課程 / 文芸学専攻 / 映像芸術専攻 / 造形芸術専攻 / 音楽芸術専攻 / 舞台芸術専攻

◇ 博士後期課程 / 芸術専攻

熱気・やる気・元気

江古田校舎

**OPENCAMPUS**

6・26 [日] 7・31 [日]

予約制 10:00～16:00

学部全体説明会(入試説明含む) /  
模擬授業/ワークショップ/  
個別進学相談コーナー 他

江古田校舎

**入試相談会**

11・3 [木・祝] ・5 [土]

10:00～16:00

個別進学相談コーナー/ビデオ上映コーナー 他

江古田校舎

**入試博覧会**

2023年

3・18 [土] ・19 [日]

上記日程のうち、オンライン及び対面での  
開催を予定

8つのアート1つのハート

**N U**  
Nihon University College of Art  
**A r t**

日本大学藝術学部

<http://www.art.nihon-u.ac.jp/>

■ 江古田校舎 練馬区旭丘 2-42-1 TEL.03-5995-8282